

平成26年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－6号)

農林総合研究センター
平成26年6月27日調査

気象経過

1. 6月第5半旬の気象は、平均気温が金沢、輪島ともに平年並（金沢：-0.3℃、輪島：-0.6℃）となった。また、日照時間は、平年に比べ金沢でかなり多く、輪島で多くなった（金沢：182%、輪島：134%）。降水量は、平年に比べ金沢、輪島ともにかなり少なくなった（金沢：34%、輪島：10%）。
2. 6月25日発表の向こう3か月の予報では、気温は平年並、降水量は平年に比べ多いと予想されている。

生育概況等

【生育状況】

1. 出穂期
ゆめみづほの出穂期は近年より3～6日早い7月14～20日頃と予想される。
2. 葉齢
コシヒカリの葉齢は、10.6葉となっており生育は2日程度早い。加賀地域の生育の早い圃場で幼穂が確認された（幼穂長0～0.5mm）。
3. 草丈
コシヒカリは平年比102%（加賀地域102%、能登地域101%）と平年並、ゆめみづほは近年比104%（加賀地域103%、能登地域107%）と近年並である。
4. m²当たり茎数
コシヒカリは、平年比95%（加賀地域90%、能登地域103%）と平年並、ゆめみづほは近年比92%（加賀地域90%、能登地域97%）と近年並である。
県下の調査地点の内、コシヒカリの約5割、ゆめみづほはの約7割で最高分げつ期を経過した。
5. 葉色
コシヒカリの葉色は低下傾向にあり平年並であるが、一部で濃いほ場が見られる。

【病害虫の発生状況】

1. 紋枯病の初発が確認され（6月23日）、平年に比べ6日早い。
2. 現在までのところ本田におけるいもち病の発生は確認されていない。
3. 雑草地における斑点米カメムシ類の発生は多く、特にカスミカメムシ類の発生が多い。
4. セジロウンカが平年並の6月26日に初確認された。

当面の対策

1. ゆめみづほの1回目の穂肥は、着粒数を確保するため、適期である幼穂長1～2mm（出穂23日前）を確認し、遅れずに施用する。葉色が濃いほ場（葉色板値4以上）や茎数が650本/m²を超えているほ場では時期は遅らせず施肥量を減らす。
2回目の穂肥は、葉耳間長±0cm（出穂10日前）とし、遅くとも葉耳間長+2～3cm（出穂7日前）までに基準施肥量を施用する。
2. コシヒカリは、稲体の健全化、弱勢分げつの発生抑制と有効茎歩合の向上を図るため中干しを継続する。生育が早まっており幼穂形成期も早まると予想されるので、中干しは7月第1半旬までとする。
3. コシヒカリの1回目の穂肥施用にあたっては、幼穂長15mm（出穂16～15日前）、葉色板値3.5を確認して行う。ただし、茎数が多く、葉色が濃い圃場では、施用時期を遅らせたり施肥量を減らす。
4. 穂肥施用後は根の機能を保持し、登熟を向上させるため、間断通水で土壌の飽水状態を保つ。
5. 紋枯病の初発が平年より早いため、常発地や前年発生ほ場、茎数の多いほ場では多発する可能性があるので防除を徹底する。粉剤での防除適期は、イネの出穂10～14日前である。

6. いもち病の発生はやや多と予想されるので、常発地や葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
7. 斑点米カメムシ類の発生が多くなっているため、生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで生息場所である畦畔や農道の除草を徹底する。除草は、集落など地域全体で一斉に実施すると効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。